

大項目	3	身近な地域と持続可能な地域社会づくり (ESD を含む)			
中項目	3-2	身近な地域調査と持続可能な社会づくり (ESD)			
小項目	3-2-2	持続可能な地域社会づくり			
細項目 (発問)	3-2-2-4 格差と不平等	地域社会における格差や不平等の問題とはどのようなものですか。			
作成者名	吉田 容子	作成日	2017/2022/2023/2024	Ver.	1.3
キーワード 5~10 個程度	格差, 不平等, 差別, 排除, 地域的差異, 地域社会, 地域住民				

発問と説明

(1) 現代社会における格差や不平等とはどのようなものでしょう。

「格差社会」という言葉が日本で使われるようになってしばらく経ちます。高度経済成長期の頃、重厚長大産業を中心に発展する大都市圏と人口流出が著しい地方農山村との間で経済格差・所得格差が広がったことで、格差についての問題はすでに始まっていました。1980 年代後半のバブル経済の頃には、株価や地価の高騰が、資産を持てる人と持てない人とに二分し、両者の間に大きな格差を生み出しました。その後の小泉元首相の政権下では、「聖域なき構造改革」のもと、政府によって公共サービスの民営化や不良債権処理が進められるとともに、国内の景気回復の近道として企業の収益向上が優先されました。しかし一方では、労働者の所得が思うように上昇せず、消費拡大につながらなかったことから経済が伸び悩み、企業はコスト削減のために非正規雇用を増大させていきました。その結果、正規雇用と非正規雇用の間で所得格差が広がりました。非正規雇用の増大は、子どもの教育環境に影響を及ぼしたり、日常生活を経済的に圧迫したりしています。また、超高齢化社会へと向かうなか、高齢者の中で、老後を安心して暮らせる富裕層と、年金にすら頼れない人たちとの格差が問題となっています。

上記のような経済的要因は貧富の格差を生み出しますが、格差問題はそれだけではありません。男女間格差、世代間格差、学力格差、健康格差、地域間格差など、さまざまな格差が社会に存在しています。男女の生物学的差異を理由に女性に対する教育の機会を奪ったり制限することが、かつて日本の社会にも顕著にみられました。現在でも、男性を優位とする考え方にもとづく性別役割分担によって、職場での地位や役割が男女間で異なったり、家事・育児・介護に多くの時間を割くことになる女性の方に離職や非正規雇用（パート、アルバイト、派遣）が多くみられます。不況のもとでは、企業が正規雇用採用を控えるため、非正規雇用となる新卒者が増えます。こうした場合、新卒者は労働市場で専門的知識や有用なスキルを身につける機会を失ってしまい、いつまで経っても正規採用されず、非正規のまま働き続けるという悪循環に陥っていきます。さらに、精神的・身体的に障がいのある人たちは、教育を受ける場や就労する場を限定され、地域で日常生活を送ることがいまだ困難な状況にあります。つまり、障がいを理由に社会から排除され、社会参加の機会を狭められてきたのです。また、戦前から日本に居住する「オールドカマー」の人たちや、1980 年代半ば以降日本にやって来た「ニューカマー」の人たちは、マイノリティ社会集団であるがゆえ、ホスト社会の中で様々な機会の不平等や格差の問題に直面してきました。セクシュアル・マイノリティの人たちも、周囲の差別や偏見によって医療サービス・情報へのアクセスを阻害されたり、学校・職場や地域社会の中で排除されたりするなどの不平等を被っています。

(2) 統計データの地図化からわかる現代社会における格差や不平等の地域的差異

(1) でみたように、現在社会においては、格差やそれに起因する不平等に様々なものがあることがわかります。地理学では、数字の羅列で現象を把握しにくい統計データを地図化することで、「どこで」「何が」起こっているのかを可視化して空間的パターンを把握し、そこから格差や不平等の地域的差異を読み取ってきました（武田・木下編著，2007；石川編，2011；宮澤編著，2017）。日本における無医地区数を表した **図 1** からは、山間部を中心に医療アクセスが限られていることがわかります（宮澤編，2017）。「救急患者受入医療機関」までの平均所要時間について東京都と新潟県の例を示した **図 2** からも、中山間地域を抱える地方都市新潟の医療アクセスの問題が浮き彫りにされています（宮澤編著，2017）。また、**図 3** からは、大都市圏を中心に高齢者住宅が偏在していることがわかります（宮澤編著，2017）。統計データの地図化から、教育、医療・保健、情報・サービスを受ける機会やその質について、都市部と地方との間の差異や格差が指摘されてきました。

図と表のページ

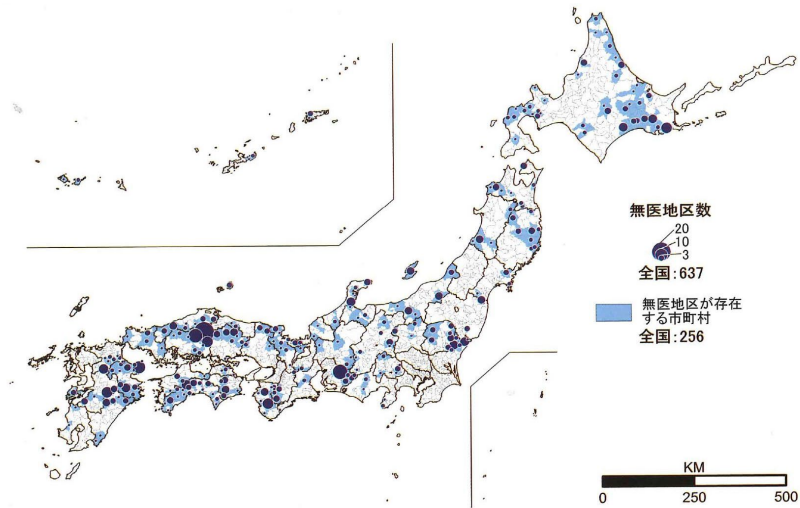


図1 無医地区数 (2014年, 市区町村別) 出典: 宮澤編著 (2017, p. 52)

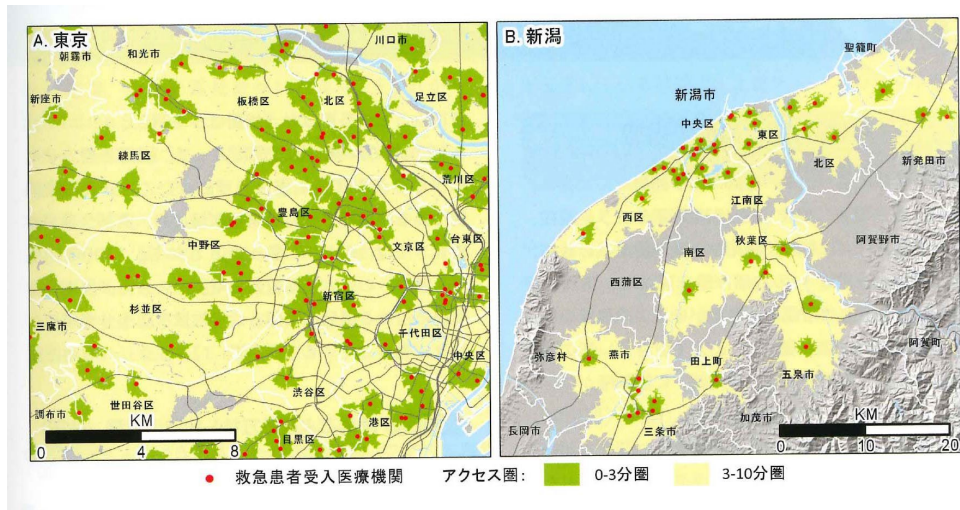


図2 「救急患者受入医療機関」までの平均所要時間別にみたアクセス圏 (2016年) 出典: 宮澤編著 (2017, p. 65)

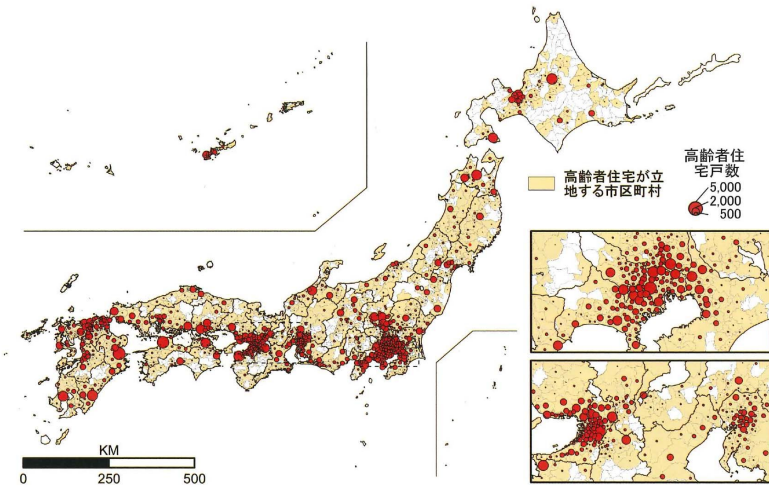


図3 高齢者住宅の戸数 (2015年, 地区町村別) 出典: 宮澤編著 (2017, p. 115)

(3) 地域社会における格差・不平等の問題

武田・木下編著 (2007), 石川編 (2011), 宮澤編著 (2017) のように, 統計データを地図化する作業は, 空間パターンを明らかにして地域的差異を読み取るという点でたいへん有用です。しかし, 私たちは, 様々な主体の間に結ばれた関係性の中 (すなわち社会) で日常生活を送っています。私たちの身近な暮らしの場である地域社会のレベルにおいて, どのような格差や機会の不平等があるのかを把握することも重要です。

原口は, 「日雇いの町」「野宿者の町」として表象される大阪市西成区の通称「釜ヶ崎」を対象に, 詳細な調査を行っています (原口, 2003 ; 2011 ; 2012)。1970 年開催の大阪万博の建設工事労働者として 1960 年代を通じて流入した地方出身男性の中には, 簡易宿泊所が多くあった当該地域を生活の拠点とする人が多くいました。その後, 彼らはバブル経済の崩壊で失業し, その日暮らしの日雇労働者となって野宿生活を余儀なくされます。彼らの多くは, 地元警察や地域住民との軋轢を繰り返しながらも, 「釜ヶ崎」での生活を続けてきました。警察の対応に抗議して何度も暴動が起こったため防犯カメラが設置されたり, 貧困から医療サービスが受けられず, 社会保障へのアクセスも閉ざされるなどの状況に置かれたうえ, 地域住民からも偏見と差別のまなざしを受けてきました。また, 暴動がマスメディアに取り上げられたことで, 地域住民にも差別的な視線が投げかけられました。こうした経緯から, 地域住民にとって「釜ヶ崎」の地名は抹消すべきものとなり, かわって「あいりん」という地名が用いられることになりました。その一方で, 野宿者支援の民間ボランティア団体の活動が多数あります。日雇労働者・野宿者や支援団体と, 地域住民とは, 地域社会の中で相容れない関係にあったといえるでしょう。

研究対象とした時代は少し遡りますが, 吉田 (2010) は, 朝鮮戦争時に日本に設置された米軍帰休兵の休養・回復施設周辺に出現した歓楽街に着目しました。表 1 は, 当時の奈良県内の主要地方紙を検索し, 歓楽街やそこで働いた女性たち, 彼女たちに米兵客を斡旋する男性たちが, どのように描かれていたかを整理したものです。新聞は様々な情報を提供する媒体ですが, そのスタンスは必ずしも中立とはいえません。戦後の一時期, 戦勝国への不満や批判を表立って記事にできなかったことや, 人権への配慮が欠けていたことが考えられます。記事見出しや本文には性的な仕事に携わる女性や斡旋役の男性を蔑む表現が散見され, 歓楽街の男女に向けられた侮蔑的・揶揄的なまなざしは, 地域住民が歓楽街をこの地域から排除していく活動に対し, 大きな影響を与えました。

近年の (社会) 地理学は, 居住空間や日常空間といった空間のレベルにも注目するようになりました。なぜなら, 統計データやその地図化を通じて把握することがむずかしい, プライベートでしばしば「閉じた」領域で生じる問題もあるからです。たとえば, 阿部 (2005) は, 日本に流入するフィリピン人女性エンターティナーを調査し, 女性たちの日常空間までもが雇用者によって管理・監視され, 人権が脅かされていることを指摘しました。また, 村田 (2002) は, セクシュアル・マイノリティの視点に注目して, 日常空間における男女の性別カテゴリーの意味を問い直しています。私たちの生活の最小拠点である居住空間や日常空間を核として, 様々な人たちとの間に関係性が結ばれていきます。関係性は空間的にも広がっていきます。これこそが地域社会なのです。様々な人たちの営みを尊重し, 互いの差異を認め合うことができたなら, 地域社会はうまく機能してゆけるのです。

参考文献 (J-Stage の書誌情報に pdf ダウンロード記載)

阿部亮吾 (2005) フィリピン人女性エンターティナーのパフォーマンスをめぐるポリテクス・マイクロ・スケールの地理に着目してー, 地理学評論 78, pp. 951-975.

https://www.jstage.jst.go.jp/article/grj2002/78/14/78_14_951/_article/-char/ja

石川義孝編 (2011) 『地図でみる 日本の外国人』ナカニシヤ出版, 73p.

武田祐子・木下禮子編著 (2007) 『地図でみる日本の女性』明石書店, 92p.

原口 剛 (2003) 「寄せ場」の生産過程における場所の構築と制度的実践—大阪・「釜ヶ崎」を事例として—, 人文地理 55-2, pp. 23-45.

https://www.jstage.jst.go.jp/article/jjhg1948/55/2/55_2_121/_article/-char/ja

原口 剛 (2011) 労働運動による空間の差異化の過程—1960-70 年代の「寄せ場」釜ヶ崎における日雇労働運を事例として—, 人文地理 63, pp. 324-343.

https://doi.org/10.4200/jjhg.63.4_324

図と表のページ

表1 新聞記事にみる歓楽街の記載

	歓楽街	歓楽街で働く女性	幹旋役の男性
大和タイムス	人肉の市 不夜城 国際的歓楽街 国際的パンパン都市	夜の姫君, 夜の女 街笑婦 真紅のルージュの売春婦 カルメンたちの群れ サービス・ガール パンパン・ラッシュ パンパン狩り	リーゼント・スタイルのマネージャー ひしめくポン引きの群れ 奈良新名所ポン引き群 大規模なポン引き団
奈良日日新聞	西部の街 奈良のニューヨーク街 古典美の都奈良が生んだ戦後派名物 情欲の街 暴力の街 肉を売る市 人肉の市の修羅場 狂乱の巷 汚濁に淀む街 百鬼夜行の凄しさ	夜の女, 夜の天使 パンスケ(助), パン嬢, パン族 汚れた顔の天使 あざみの花 バタフライ	人喰う虎 古都に害毒を流すポン引き

注)記事の見出し, および, 記事本文中に使用された語句を引用。

資料:「奈良日日新聞」および「大和タイムス」より筆者作成。

出典: 吉田 (2010, p. 253) を一部改変。

- 原口 剛 (2012) 地名をめぐる場所の政治—1970年代と2000年代の「釜ヶ崎」を事例として—, 地理学評論 85, pp. 468-491.
<https://doi.org/10.4157/grj.85.468>
- 宮澤 仁編著 (2017) 『地図でみる日本の健康・医療・福祉』明石書店, 204p.
- 村田陽平 (2002) 日本の公共空間における「男性」という性別の意味, 地理学評論 75, pp. 813-830.
https://www.jstage.jst.go.jp/article/grj2002/75/13/75_13_813/_article/-char/ja
- 吉田容子 (2010) 米軍施設と周辺歓楽街をめぐる地域社会の対応—「奈良RRセンター」の場合—, 地理科学 65, pp. 245-265.
https://doi.org/10.20630/chirikagaku.65.4_245